
トイレの神様

桂まゆ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

トイレの神様

【コード】

N8543P

【作者名】

桂まゆ

【あらすじ】

トイレには、神様なんていないのです。

(前書き)

歌を聴いていて、思い出した出来事です。全部が実話ではありません。
新年早々に、すみません。

「トイレの神様」。そんな歌が歌われているけど。
トイレに、美しい女神様なんかいない。それを私は知っている。
小さな頃に聞いた話だ。「女の子はトイレを掃除しないとイケないよ。トイレを掃除すると、色白で可愛い子供が生まれるんだよ」
って。

色白イコール可愛いというのが、一番気に入らなかった。色黒で、何が悪いんだって。

友達の中では、多分いちばん美人だと思っていた。
小さな頃から「すごい可愛い」って言われていた。「おまえはモデルさんになれるよ」って。

自分でも、そう思っていた。でも、少しだけ。
色白で綺麗な髪の女の子 従妹のちひろにあこがれていた。

「ちーちゃんは、お姫さまみたいやなあ」

ちひろを見て、祖母はそう言った。

いつも、私のことを「美人になるよ」「モデルになれる」と言ってくれた祖母。でも「お姫様」と呼ばれた事は一度もない。

夏休み。私は日に焼けてますます真っ黒。でも、ちひろは日に焼けて赤くなってもすぐに冷める。すごく頑丈な肌の持ち主だった。

白いワンピースが似合うちひろ。お姫様になりたくて、一度貸してもらったけど。

私が着ても、ますます肌の色を際立たせたただけだった。

「まーちゃんは、もっと明るい色が似合うで」

そう言って、祖母はさつきまで私が着ていた服を差し出した。泣きそうになった。容姿に不満があったわけじゃない。その時の私はただ、祖母に「お姫様」と呼ばれてみたかっただけなのだ。

そんな頃だった。

学校のトイレ掃除をさぼった私たちに、用務員のおばちゃんと言った。

「女の子は、トイレ掃除さぼったらあかんで。トイレを掃除したら、色白で可愛い子が生まれるんやで」

「そんなん嘘や。トイレ掃除してってなんの得にもならん」

反射的に、そう言った。

「色白で」という言葉が癢に触ったからだ。

「そうやそうや」と友達が続いてくれた。嬉しくなっておばちゃん顔を見ると、おばちゃんはあきらかにむっとした顔をしていた。

「そうか」

おばちゃんが、私を正面から見た。

「あなたのお母さんはさぞかし、トイレ掃除さぼってたんやろうな」

それは、私の心にずしんと響いた。

私が色黒なのは、お母さんがトイレ掃除さぼっていたからなのか？
だから私は、「お姫様」にはなれないのか？

「まーちゃんは、可愛いやん」

「おばちゃん、頭おかしいんちゃうか？」

そんな友達の言葉を聞きながら、私は泣いた。

声を張り上げて。きつと、彼女たちの前では初めて、本気で泣いた。

その後の事は、よく覚えていない。

友達の話を統合すると、私はたくさんお菓子をもらって家に帰ったらしい。そして、おばちゃんは二度と「トイレの神様」の話はしなくなった。

私は、モデルにも女優にもならなかった。

普通に結婚して、主人の知り合いから「美人な奥さんやなあ」と呼ばれているが、そんなことはどうでも良い。

結婚式に来てくれた祖母が「まーちゃん、綺麗やね。お姫様みた

いや」と言ってくれたのが、最大の贅辞だったから。そして。

私の日課のひとつに「トイレ掃除」がある。
色白で可愛い子供が欲しいのかと聞かれたら、どうだろう。
それよりも。

こんなに奉仕してるんだから、そろそろ……。

トイレに神様がいないことなんか、私はとっくに知っている。
トイレにいるのは、気まぐれな妖精さんだ。可愛くても、可愛く
なくても。出ないより、出る方がよっぽど良い。

だから、私はトイレに住む妖精さんをお願いするのだ。
今日も綺麗に掃除しました。だから……生まれさせてください。

(後書き)

便秘は、身体に毒をためているようなものです。

なので、「トイレ掃除して、可愛い子を……」「シモネタですみませ
ん。

とりあえず、これでだれかさんにつけられた便秘女の汚名だけは返
上できるかと……。。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8543p/>

トイレの神様

2011年1月9日04時15分発行